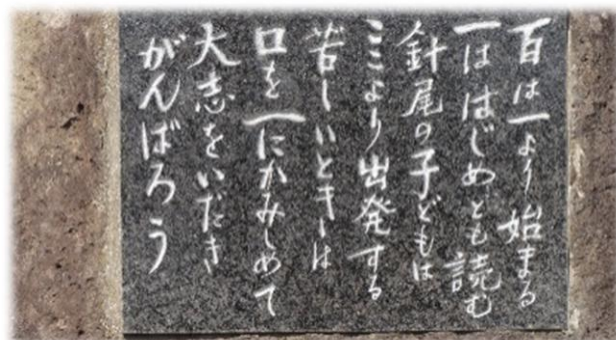


令和5年度 「特色ある学校づくり対策事業」 実践事例



【 学 校 名 】 佐世保市立針尾小学校

【 所 在 地 】 佐世保市立針尾中町1863番地

【 校 長 】 前川 直樹

【 学 校 規 模 】 児童数 118名 学級数 8学級 (令和5年5月1日現在)

【学校教育目標】一人一人が目標をもち、心豊かで、主体的に学び続ける児童の育成

1 テーマ

<めざしたい学校の姿> 豊かな関わりの中で、一人一人が輝く学校

<今年度のキーワード> 「**前進**」

～ **一人一人・一緒に・一步一步** ～

2 目的 (こんな子どもに)

(1) **は**りきる子

- ・ 目標をもち、粘り強く取り組む子ども
- ・ 新しいことに挑戦する子ども

(2) りかいする子

- ・進んで学び，工夫する子ども
- ・よく聞き，自分で考え，発表する子

(3) おもいやる子

- ・仲良く助け合う子ども
- ・さわやかな挨拶ができる子ども
- ・美しい言葉遣いをする子ども

3 実践内容

(1) 学力向上

○学力テスト

1月18日に国語と算数の学力テストを1～4学年で実施した。その結果を分析し課題を職員で共有することができた。これらの取組により子どもたちの学習への意欲の向上が少しずつ見られ，保護者の家庭学習への意識も高まってきた。

○他者と関わり合いながら主体的に学習に取り組む児童の育成を目指す授業研究

確かな学力をつけるために校内研修を中心に，「学習のルールやマナーの確立を目指した『針尾スタイル』の実践」「読む力・書く力」をつける授業づくり」

などを行った。



これらの取組により子どもたちの学習への意欲の向上が見られた。また、一人一台端末（タブレット）を持ち帰らせることで、個に応じた指導や家庭学習の充実を図ることができた。



○読書活動の推進

学校司書と連携し、子どもたちの読書活動を推進し、学校全体の読書量と質の向上を図った。図書担当が中心となり、読書ビンゴ大会や家庭での読書の啓発を進めたことで昨年度の貸し出し冊数を上回ることができた。

○基本的な生活習慣の定着

学校保健委員会を中心に家庭と連携し、学力向上につながる基本的な生活習慣の定着を図った。年3回、「生活リズムチェックカード」を活用した取組を行うことにより、よりよい生活リズムを整え、家庭学習の習慣化にも結び付いている。

(2) 交流連携

○地区の高齢者の方への「敬老の日」お祝いの手紙

児童が地域に関わる活動の一つとして、地域の高齢者へ敬老のメッセージを送ることにより、地域を支えてこられた人々に感謝の気持ちを伝え、交流を図ることのできる思いやりの心を育むことができた。

○「茶道教室」

講師を招いて、「茶道」について学習した。お茶のたて方だけではなく、作法や古くから伝わる日本人の「おもてなし」の考え方などについても学習することができた。



○「フラワーアレンジメント教室」

卒業式を控え、6年生の教室やお客さんの控室を花で飾るために、講師を招いて「フラワーアレンジメント教室」を行った。花の種類や特徴を生かしなら、グループごとに1つずつ花を活けていった。それぞれ熱心に話し合いながらすてきなフラワーアレンジメントを作ることができた。



(3) 食農体験・栽培活動

○みかんの栽培

J Aながさき西海青年部の指導を受けながら、地域に根ざした生産活動（摘果・マルチ敷き・収穫）を通して、人々の努力や工夫などに気づくとともに生産する苦労や喜びを感じることができた。日頃から何気なく食べているみかんについて新鮮な学びをすることができた。



(4) その他

○食物アレルギー研修会

毎年、年度当初に学校医の先生を招いて「食物アレルギー研修会」を行っている。本校は食物アレルギーの児童の割合が高く、いざという時のためにその症状や対応の仕方、エピペンの使い方等の研修を行っている。給食配膳後も職員2名が誤食がないようダブルチェックしている。



4 おわりに

今年度は新型コロナウイルス感染症が五類感染症に移行になりこれまで自粛や中止していた活動や学習が少しずつ実施できるようになった。外部との連携や地域との交流を大切に、「特色ある学校づくり事業」の予算を活用し、地域ともにある学校を目指して取組を行ってきた。特に3年生の「みかんの栽培」は毎年、JA西海農協青年部のご協力をいただきながら、地元に根付いている活動である。子供たちも3年生になると楽しみにしている。これからも大切にしたい活動である。

来年度も、地域の豊かな自然や人材を生かし、地域や家庭と連携しながら、地域に深く根ざした「特色ある学校づくり」を目指していきたい。